

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 社会医療総合医学教育研究分野 氏名 大久保 礼由
指導教授氏名	中路 重之
論文審査担当者	主 査 早狩 誠 副 査 中村 和彦 副 査 大門 眞
(論文題目) Relationship between self-reported sleep quality and metabolic syndrome in general population (一般住民における自記式睡眠の質とメタボリックシンドロームの関係)	
(論文審査の要旨) <p>近年、睡眠時間がメタボリックシンドローム (MS) と関連していることが明らかとなり、本研究では、睡眠の質も含めた総合評価が可能であるピッツバーグ睡眠質問票 (Pittsburg sleep quality index: PSQI) を用い、睡眠の質と MS との関連性について検討を行った。</p> <p>2007 年から 2010 年岩木健康増進プロジェクトに参加した 20 歳以上の一般住民で、データの欠損値のある者、睡眠に影響を与える薬剤を服用している者 (眠剤服用者は含む)、悪性腫瘍の既往歴のある者を除く 1481 名 (男性 549 名および女性 932 名) を対象とした。PSQI は主観的睡眠の質、入眠時間、睡眠時間、睡眠効率、睡眠困難、眠剤の使用、日中覚醒困難の 7 つの要素から構成され、各要素を 3 点満点で評価し、得点が 6 点以上を睡眠障害と判定した。腹部肥満を絶対条件とし、その他 2 項目を満たした者を MS と判定した。解析では年齢、飲酒、喫煙、労働時間、運動週間、抑うつも含めて行った。</p> <p>睡眠異常と判定された群 (総合 PSQI 得点が 6 点以上) は、男性で 52 名 (9.5%)、女性で 133 名 (14.3%) であった。特に MS 群は、非 MS 群に比べ、PSQI 得点、入眠時間得点、睡眠困難得点が有意であった。また、睡眠障害と判定された群 (PSQI : 6 点以上) は、6 点未満の群に比べ、MS オッズ比は男性で 2.37 (1.23-4.56)、女性では 2.71 (1.45-5.07) であった。なお、入眠時間得点が 2 点群の MS オッズ比は、0 点群に対し、男性では 2.65 (1.14-6.15)、女性では 3.82 (1.81-8.09) を示した。入眠困難得点 1 点群の MS オッズ比は、0 点群に対し、男性で 1.76 (1.09-2.86)、女性で 2.43 (1.26-4.69) であった。</p> <p>以上の結果から PSQI の構成要素である入眠時間、睡眠困難は MS と関連し、さらに睡眠の量のみならず、睡眠の質が重要であることが示唆された。</p> <p>本報告内容は、今後の機序解明等の臨床研究に大きく寄与する重要な報告であり、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	BMC Public Health 2014, 14 巻 562-7 (掲載)